



Q：今年の冬はマイコプラズマ肺炎流行の兆しがあると報道されていました。

A：国立感染症研究所によると、患者数の増加傾向が続いています。周期的に大流行を起す病気で、かつて4年周期で夏季オリンピックの年に流行したことから、「オリンピック病」とも言われました。近年では地域的な小規模の流行が起こる傾向でしたが、リオ五輪があった今年は大流行となりそうです。

肺炎マイコプラズマという病原体による呼吸器感染症で、細菌の一種に分類されますが、一般的な細菌と異なり細胞壁を持たない特殊な菌

で、ペニシリン系、セフェム系などの細胞壁合成阻害の抗菌薬が効きません。感染は飛沫感染と接触感染により、潜伏期間が2〜3週間と長く、感染拡大の速度は遅いため、学校などの短時間での暴露による感染拡大の可能性は高くはありません。頭痛、だるさがあり高熱が続いて、夜間



に悪化する頑固な咳が3〜4週間と長く続くのが大きな特徴です。特異的な予防法はなく、手洗い、うがいなどの励行と、患者との濃厚な接触を避けることです。

(岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F)

☎055・288・1801